

P32 ミニチュア歯科診療室と発達心理テストを用いた小児と歯科医師との信頼関係に関する研究

Investigation into the human reliability relations between infant and dentist utilizing the miniature dental clinic and psychological development test.

○ 杉本あゆみ、尾崎正雄、本川 渉

Ayumi Sugimoto, Masao Ozaki, Wataru Motokawa

福岡歯科大学成長発達歯学講座成育小児歯科学分野

Division of Pediatric Dentistry, Department of Oral Growth and Development, Fukuoka

Dental College

【目的】小児歯科の臨床では歯科医師と患者との信頼関係が重要である。しかし、小児と歯科医療スタッフとの間に信頼関係が確立されているかどうかを判定する方法は少ない。本学の尾崎らは、歯科診療室をミニチュア化した箱庭と人形を用いて小児の歯科診療に対する不安度を判定する方法を開発している。そこで私は、尾崎らの分類方法と、発達心理学テストの関係を調査した。

【症例】本研究の対象者は、本学小児歯科外来に来院した小児 25 名(男子 13、女子 12 名)で平均年齢 5.7 歳に対して、人形を配置させた。また、その保護者には発達心理テスト(KIDS 乳幼児発達スケール;発達科学研究教育センター)を記入させた。

【結果】ミニチュア歯科診療室を用いた小児の評価では、患者自身に見立てた人形をデンタルチェアの上に置いた(Type4)ものが全体の 68%で最も多く、人形をデンタルチェアに置かないその他の Type と比較して、生活年齢並びに総合発達年齢が高かった。しかし、総合発達指数は自身をデンタルチェアに置かない Type1,2の方が Type4よりも高く、最も配置状態の悪い Type3では、総合発達指数が他の Typeよりも最も低かった。このように、ミニチュア歯科診療室に配置された人形の Typeと小児の社会的発達状態には関係が認められた。今回の結果をもとに、更に小児の歯科診療における歯科医師との関係を分析する予定である。